

## 第5章 目的別勉強法

僕の教育論も終盤に入ってきた。この章では目的に合わせた勉強のやり方を説明するよ。目的と言っても、勉強を使う目的は様々だ。仕事のために勉強する人もいれば、趣味のために、子どものために勉強する人もいる。そこで今回は君にとって、恐らく必要になるであろうものを集めてみた。

それは「受験」だ。君がより進んだ勉強をしたいと思ったら、より上級の学校に入学する必要がある。君が成長し、いよいよ働こうと思ったら、会社の門をたたき、仲間に入れてもらう必要がある。そんな時、避けては通れないのが「受験」というものだ。応募者が複数いる場合、その中からより適したものを選抜するために行われるのが入学試験や採用試験というもので、学校の受験や会社の入社試験など、君の人生と受験というものは切っても切れない関係にある。

勉強ってヤツは、その意味を理解し、正しいやり方でやれば誰にでもできると僕は言ったね。ここで紹介する受験や試験のやり方だってそれは同じだ。正しいやり方を知って、それを普段の勉強に生かしていけば、受験だからと言って恐れる事はない。一緒に正しい受験のやり方を学ぼう！

## 1. 中学受験の勉強法

日本には義務教育と言う制度があるから、本来小学校を卒業した人は中学校へ自動的に入学する事になる。でも、より専門的な学習を、早期に始めたい人のために私立の中学校がある。

私立中学は併設する高校と一緒になっていて、中学と高校の六年間で一貫した教育を行うことが出来るんだ。具体的には私立中学の人達は六年後の大学入試を目指して勉強する。これは公立出身の人達が中3まで高校入試を目指して勉強しているのと比べると、大きな進度の差になる。公立の中三生は受験に合格する知識を手に入れるため、先に進む事よりも、徹底した知識を身につける事を選択する。一方私立の中三生は入試がないからほとんど高校の内容を先取りして勉強する事ができるんだ。コレが私立中学の大きなメリット（利点）になる。

全国に私立中学は約700校ある。その多くは首都圏や大都市にあり、この地域では受験熱が増している。東京・千葉・埼玉・神奈川の4都県では2000年に約38500人（12.5%）だった中学受験生は2008年には52500人（17.7%）に増えている。

少子化によって子どもの数が減っているのに受験生の数は年々増えているから、その分厳しさは年々増ってきている。

中学入試の試験科目は4教科（国語・算数・理科・社会）か2教科（国語・算数）。多くの学校は4教科入試を行い、2次3次募集などで2教科入試を行うところが多い。偏差値の高い学校の多くは4教科で入試を行うところからみても、中学入試の主流は4教科なんだ。中学入試の準備に取り掛かるのは平均して小4からだと言われている。もちろんそれより早い場合もあるし、それより遅くても合格した子だっている。でも、多くの塾が小4から受験コースを設置していたり、受験向けの参考書の配当学年を見ても小4から受験勉強という見方が優勢だ。中学受験を目指す小学生達は、高学年になると遊びから勉強にシフトしていかなければならなくなるってわけだね。一番遊びたい盛りの小4から、周りの友達が遊んでいても必死に勉強しなければならぬ。しかも三年間も。そう考えると中学入試はどの受験よりも過酷な試験だ。

なぜそこまでして私立中学に入学する必要があるんだろう。公立という、誰でもいける学校があるのに一体なぜ？

僕自身は中学入試の経験はない。僕が小学生の時、先生に受験を薦められたが、親が「ウ

チにはそんなお金はない」と断ってしまった(泣)そして僕は公立中学に進んだ。そしてその後僕は高校受験で私立高校に入学した。

僕が入った高校には中学部もあって、僕達高校受験を経てきた「外部生」は、付属中学から内部進学してきた「内部生」と高校で一緒になった。内部生は勉強も進んでいてテストの成績もいい。僕だって中学時代は学年で五番以内はずっといたのに、高校に入った途端、後ろから10番くらい位置をウロウロするようになってしまった(泣)そして同じように出来の悪い外部の子達と群れるようになり、友達も外部の子が多くなった。内部の人は雲の上の存在(笑)で、彼らと話すのは勉強を教えてもらう時だけ。そんな状況だった。

そんなこともあってか僕は内部生があまり好きにはなれなかった。中学時代の友達とは好きな女の子の話をしたり、小学校でサッカーをしたり、他の学校の子たちとパーティ(合コン)をしたりして遊んでいたが、内部の子達はそういうことにあまり関心がないようで、一度合コンに誘った時に「そんなことしてるから成績悪いんじゃないの」と言われた事もあった。(まあ正しい意見なんだけどね)

またこんな話もある。僕が中学の頃、宮沢りえという芸能人がヌード写真集を出した。僕の中学はその話題で持ちきりでほとんどの男子は「みてえなあ!」とよだれをたらしていた

(笑)そこで僕らはみんなでお小遣いを合わせて共同購入する事にした。同志を募ってやつのことで数千円をかき集め、いざ本屋さんへ。仲間の中で一番大人っぽく見える子を代表に写真集を持ってレジへ向かう。僕らは知らないフリでその子を見守る。もう少しであの芸能人の裸が見える！しかし、僕らの夢は店員の無情な言葉によつて、粉々に打ち砕かれてしまった。

「君、中学生でしょ。まだ早いわよ。家で勉強してなさい。」

ガビチョビン(泣) レジを見守る僕らはみんなショクな顔をしていた。あれだけみんなの情熱を宮沢りえの裸に注いだのに！僕らは本屋からの帰り道、肩を落としながら歩いた。

そんな写真集と再会したのは高校2年の時だった。高校でできた友達の家にも、普通にその写真集があつたんだ。

「ああ、それ。先輩から買ったんだ。プレミアついてて六千円も出したんだぜ。見たかったら貸すよ。500円ね。」

それを聞いて僕は急にその写真集への熱い想いが冷めてしまった。圧倒的な経済力の差、学力の差だけではなく、お金のほうでも完全にノックアウトされてしまった自分がいた。

今から考えれば、僕の私立嫌いは単なる偏見だったと思う(笑)自分もつていないもの

を持つている者達への単なる憧れが、僕を私立嫌いにさせた。でもその頃と今は時代が少し変わった。私立中学を受験する子が増え、かつての「お金持ち」「頭がいい」というイメージは薄れ、中学選択の一つの選択肢として私立を選ぶ人が増えた。勉強がそんなにできなくても入れる学校はあるし、びつくりするほどのお金持ちじゃなくても（年間100万円程度の学費が払えれば通学は可能だ）入れるんだ。

そんな状況の変化もあってか、先生になって多くの中学受験生を見てきて、僕の考え方は変わった。私立には私立のよさがある。そう思うようになった。逆に公立中学の荒廃ぶりを見ると私立の方がいいのかなとさえ思うようになった。

私立中学の良さとは何か。それは「たくさん勉強ができる」ということ、僕はそれしかないと思っている。学校という所は、世の中の事や人間関係を勉強する所だと僕は説明した。そのうちの世の中の事を勉強するには私立は絶好の場所なんだ。私立中学では設備の整った環境で、早い内から高度な勉強ができる。色んな器具を備えた理科室、専門知識を持った先生、外国人の先生も私立にはたくさんいる。そんな恵まれた環境で高校入試を気にせず6年間も勉強できるんだ。だから大学受験に強いのもうなづけるだろ。学問や教科の勉強においては、私立と言う選択肢は正しいと思う。

逆にもう一つの学校の目的である人間関係の勉強は、公立よりも劣る。そう僕は考える。公立ではいろんなヤツと交わって過ごす。悪いヤツもいいヤツも、うるさいヤツもおとなしいヤツもいる中で、みんなで大人になっていく。世の中の縮図のような世界でお互い揉まれ合いながら強くなっていくんだ。でも、私立中学の子達はそれを経験しない。彼らはテストの成績でくくられた人達とだけ付き合って大人になる。だから人を点数で判断したり、勉強さえ出来ればいいという考え方に陥りやすい。勉強ができるという一部の才能を認められて合格しているだけに、変なプライドを持ってしまいうちも子も多い。公立では勉強ができるということも特技の一つで、スポーツだって音楽だって、人には何かしらの「得意」があるものだという認識がある。だけど私立の場合は「偏差値至上主義」といわんばかりに、主要教科の点数や偏差値が全ての基準になっている。(そんな空気を僕は感じた)点数が高いヤツ、合格に近いヤツが偉い。体育や芸術が得意な子はいても、「それやってなんかいいことあるの?」と勉強以外の得意を認めない。受験と言うシステムで早いうちから他人との競争を経験した弊害がそんな所に現れてしまっている。

だから私立中学の子達は積極的に色んな人と付き合い合わないと、視野の狭いちっぽけな人間になってしまう。一部の人間だけで集まって変なエリート意識を吹かせている、そんなヤツ

はどんなにテストが出来ても好かれはしない。

私立にも公立にもそれぞれの良さと悪さがある。でもそれは絶対的なものではなく、自分の努力次第でいくらでも挽回できるものなんだ。

例えば学力。僕は公立に行ったけど、ちゃんと大学までいけたよ。(勉強好きが高じて4つも行ってしまったけど)世の中の事を学ぶのは私立の方が有利ではあるけど、それは絶対的なものじゃない。公立の学校だって、本を読んでだって学ぶ事は出来る。

僕が小学校の頃、中学受験をして私立に行った子がいた。その後6年経って、その子とたまたま同じ大学で再会したんだ。その子は僕らが野球やサッカーに夢中になって遊んでいた頃、塾に通って猛勉強していた。そしてその子は私立に、僕は公立に進学した。そして僕は高校時代、猛勉強した。(ビリから10番じゃないわけにはいかなかった)だから勉強ができるようになり、成績も上がった。そして大学入学時点で同じくらいの学力を持つ事が出来た。それだけの事だ。その子と大学で出会った時、僕は「別に公立でも不利はないじゃん」と思った。

学校という「いれもの」は大事な要素だけど、それだけで「君」という人間の中身は決まらない。世の中の事、人間関係、どちらもどこかでちゃんと勉強しないといけない事だ。私



立て先に世の中の事を勉強するか、公立で人間関係を勉強するか、それだけの選択だと僕は思う。学ばなかった方はその後の人生のどこかで学ぶ時が来る。だから私立も公立も、どちらもどっちだと僕は考えている。

中学受験をする目的は、もっともっと勉強したいから、それだけだ。いい大学に行くためでも、お金持ちになるためでもない。より勉強が好きなのが、もっと勉強ができる場所を求めて受験していく、それが中学受験というものだ。

コレを勘違いする事が多くの悲劇を生みだす。僕は今まで本当に色んな人達と出会ってきた。そして多くの修羅場を経ってきた。

まだまだ遊びたい盛りの小学生に勉強を強要する親、テストの点数を見てひっぱたいたり、「アンタのためにいくらかけてると思ってるの!」と罵声を浴びせる親、「先生、うちの子、勉強させようとすると白目をむいてしまうんですけど」と相談してきた親もいた。「パパは何にも分かってないんだから!」と僕の目の前で夫婦喧嘩を始める親もいた。精神科医のお母さんが「ウチの子何考えているか分からないんです」と嘆いていた事もあった。受験勉強中、親のことをあまりにも嫌いになって、全寮制の学校へ「避難」する小学生もいた。(都内の際難間の私立に合格していたのに) 中学入試をする子がクラスに一人しかなくて周りの子か

ら「お金持ちだ」とか「がり勉」といじめられる子もいた。そのお母さんもクラスの保護者会では「まだ小学生なのに勉強ばかりさせて、虐待じゃないの？」と言われていたそうだ。

僕が直接中学受験の生徒たちを見てきて思うのは、どの子もごく普通の子だということ。彼らは頭がいいわけでも、特殊な能力があるわけでもない。どの子もちよつと人より勉強が好きで、もつと色んなことを知りたいなあと思っている。それがきっかけで始めた中学受験だった。でも、やっていく中で親は豹変してしまった(泣)好きで始めた勉強なのに、その勉強がそれまで長い間積み上げてきた親子の絆をボロボロにしてしまう。それじゃあ子どもが二度と勉強したくないと思うのも無理はない。ひどい時には家庭が崩壊してしまうような家を、僕はいくつも見てきた。

それが僕の知る、リアルな中学入試だ(笑)僕はそんな世界で今まで家庭教師として多くの小学生の偏差値を10も20も上げてきた。たった一ヶ月でE判定(絶対無理だから志望校変えなさいという判定)の子を志望校に入れたり、勉強が嫌いな子が自分から勉強して学年トップになったり、そんな「伝説」を作ってきた(笑)

僕は一体何をしてきたのか。中学受験を志す生徒や親が一番聞きたいのはこの部分だと思う。だからもつたいぶらず教えましょう(笑)僕が考える中学受験の必勝法とはズバリ、

## 受験のために勉強しない事！

受験をする理由は、何度も言うけど「その学校でより進んだ勉強をしたい」と思ったからだ。合格したその先に君の夢がある。合格した学校で勉強を重ね、将来の夢に一步でも二歩でも近づいていく。それが学校を受験する大きな目的だ。

でも、いつの頃からか塾の先生は「合格さえすれば未来が開ける」みたいな事を言う。(だから、入学して勉強が嫌いになり退学してしまう子もいる)最初は「勉強が好きなら好きなら勉強していいのよ」なんて言っていた親も、最近では「こんな成績でどうするの」って怒ってばかりいる。僕が今何を勉強しているかなんて知らないくせに。

いつしか勉強するために始めた受験が、受験のための受験に変わっていく。そして生徒達は少しずつやる気を失くしていく。好奇心は萎え、新しく知る事を拒否するようになる。そして成績を落とし、不合格という通知をもらって「二度と勉強なんかするもんか」と思う。それが受験に失敗する典型的なパターンだ。

だったら受験のためなんか勉強しなければいい。未来の保証なんて誰にもできないんだ

から、合格したらいい事があるなんて思わずに、「分からない事をもっと知りたい！」それだけを理由にして勉強すればいいんだ。親のためでもなく、お金のためでもなく、君自身の夢のために、もっともっと勉強したい。そう考えればいいんだよ。

僕と出会った生徒が勉強を好きになり、成績を上げていくのは、僕と一緒に勉強する時間が単なる受験勉強ではないからだ。新しい事を知る中で生まれてくる疑問、問題を解く事で生まれる疑問、勉強すれば次々と疑問がわいてくる。もっともっと知りたい気持ちが生まれてくる。そんな生徒が抱える様々な疑問に、ちゃんと答え、理解させるのが先生の役割で、僕はそれを忠実にやっている。僕は「それは受験に出ないから」と言う理由で、生徒の好奇心を無視したりはしない。テストの問題に関するものから、一見くだらない雑談のようなものまで、色んな所から飛んでくる生徒の疑問に答え、生徒の「なぜ」を解決して行く。そしてそれを暗記させるのではなく、生徒自身の言葉で説明できるように教えていく。そうやって疑問を納得し、自分の頭で考えて、自分の言葉で答えを出せるようになった時、勉強は出来るようになる。勉強ができれば入試問題を解く事なんて簡単な事だ。

よく問題を間違えて怒られたという生徒がいる。僕は先生を始めて今まで、問題を間違えたからと言う理由で生徒を怒ったことは一度もない。問題ができなければ、何で出来なかつ

たのか、それがどういうことなのかを、もつともつと説明する。できなかったという事実を嘆くよりも、なんでできなかったのか、どうすればできるようになるかを考えた方がよっぽど現実的だ。

僕が思うに中学受験ではどの科目も「基本をミスしない」子が合格する。算数であれば最初から半分近くの問題をパーフェクトで答えれば合格点に達する。国語であれば漢字や語句を間違えず、内容を自分の言葉で答えられる子が合格する。社会や理科は基礎用語を覚えていただけじゃなくて、理解している子が受かるような問題が出題されている。小学生は大人と違って「うっかり」や「ど忘れ」をよくやる。でもそれは子どもなんだから仕方がないこと。怒って叩いて泣かせても仕方がない。僕の厳しさは「悪い点数を取ったら怒られる」というのではなく「悪い点数を取ったらその分大量のやり直しが待っている」という所にあるんだ（笑）

もし君が中学受験を目指すのならば、徹底した理解と、その反復練習を行うことだ。中学入試は決して難しい壁ではない。入試の問題は君が将来中学校で、より進んだ勉強をしていくために必要な最低限の知識を試すものだ。そのレベルに達すれば中学の授業が受けられる。そのためにどんどん勉強しようぜ！分からない事を分からないままにせず、質問して、本を

読んで一つ一つの問題を解決していこう。

中学受験の人口が増え、色んな人が色んな事を言うようになった。受験のテクニックに走る子もいれば、丸暗記で乗り越えようとする子もいる。

僕が最近感じている中学入試の問題点は、子ども達が勉強を「試験のため」にしてしまうことだ。例えば国語で文章を読む場合、「○字以内で答えなさい」と言われると、内容を考えずに、その文字数に合うものを探す。問題全文体を読まず、理解もせず、答ええできればいいと言う勉強をしている。模範解答を写して覚えるだけの勉強、そんなんでできるようになるわけではない。

その結果、国語が「苦手」になる。そして家庭教師を依頼し、僕と出会う。大抵の生徒はこんな感じだ。僕は生徒達にちゃんと文章を読むことを徹底させる。意味の分からない部分を教え、どんな話を読んだか自分の言葉で説明できる事を求める。そして問題を解く時は、たとえ抜き出し問題であっても「自分の口で」答を言えることを徹底させる。こうして国語が出来る生徒が生まれる。僕はただ、生徒達がやっている間違った勉強を正しているだけなんだけど、それだけでカリスマ家庭教師なんて言われるんだから、ラッキーな世の中だ(笑)

僕が教えている勉強は「本質の理解」を目指している。それに尽きる。勉強するのは試験の答を出すためでなく、ちゃんと理解するため。ちゃんと内容が分かっていたら答を出す事なんて簡単なんだ。例えば国語の問題を読んだらその作品に感動する。「コレいい話だね!」「そうですね」と生徒と感想を言い合える。問題文なんてほんの一部の抜粋ではあるけれど、いい作品は一部でも感動する事ができる。もっと続きが読みたくなる。僕の生徒はそんな時は本を買って続きを教えてくれる。「先生、この前の問題に出てきた話の続き読んだよ。知りたい?」そんな生徒は国語ができる。どれだけ塾で何時間勉強したって、読んだ文章の内容さえ人に伝えられない生徒がどうして受験に合格する事ができるだろう。

国語だけじゃない。算数の問題を考える時、僕は生徒と競ってどっちが先に解けるかを勝負している。先に解けた方がやり方を説明する。相手を納得させられなかったらどんなに早く出来てもダメ。答えが合ってもダメ。自分の考えた道筋を相手に説明する練習をとことんさせる。そうやって試験本番でもブレない力をつけていく。

そんな勉強を僕は生徒と一緒にやってきた。そして僕の生徒は結果を出した。それだけ。勉強ってそれだけの事なんだ。

特に中学受験は高校受験や大学受験と違って、挑戦するのはまだ将来のことなんか現実的

に考えられない小学生。夢や憧れはあっても、遊びの誘惑に負けたり、途中で飽きてしまう事もよくあることだ。難しい問題にぶつかればやる気を失くすし、悔しくて泣いたりもする。勉強の途中で遊び始めたりする事もしょっちゅうだ。ドキッとしている人はいないかな？大丈夫。僕はその点をよく分かってるよ。だから君に一つ教えておいてあげたい。

小学生の学力の差なんて全然大したことはない。

偏差値65の子も40の子も僕から見れば、その差は微々たるものだ。できる子は勉強に集中している、つまりハマッテル。逆に成績の悪い子は勉強に嫌気がさしている。中学受験のカギは「勉強に集中できるかどうか」「やる気が継続するかどうか」という点にある。

だから僕は勉強を好きにさせる。その内容を学ぶとこういうことができるようになる、と言うのを見せるし、生徒の夢を第一に考え、その夢と今の勉強がどうつながるのかを教えてあげる。そうやって勉強が好きになって、集中するようになった子は成績もぐんぐん伸びる。親や先生に言われて嫌々ながらやっている子は全然伸びない。(当たり前か)

こんなに勉強しているのに成績が上がらない、と言う人は次の点を意識して欲しい。

「ちゃんとやる」よりも「早くやる」事を重視していいか？国語の文章をいい加減に読み、適当な文字数を合わせて解答していいか？算数の文章題をよく読まずに、何を計算したか



も分からないまま適当に足したりかけたりしていいか？理科も社会も意味もよく分からな  
いで言葉だけ覚えていないか？

勉強が「ノルマ」（義務）になってしまつと、その子は伸びなくなつてしまふ。どれだけ  
時間を費やしても、正直無駄な時間になつてしまふ。それはなぜか。何も「勉強していいい  
から。だから僕は聞くんだ。」

「一体あなたは何時間も何を勉強したんですか？」  
つて。問題を何ページやった、というのは勉強ではない。その何ページをやつて、「何が分か  
つたか」を説明できるつてのが勉強したつてことだ。君の勉強は本当に勉強だろうか？

このように色々なドラマがある中学受験について、僕の経験を踏まえてざつと説明してき  
ただ、最期に中学受験を志した場合に一番気をつけて欲しい事を言つておこう。それは、  
受験と言うものが単なる通過点だと言う事。受験で君の人生は決まらない。合格してその学  
校で学べば夢の実現にちよつとは有利になるかもしれない。でもそこに行かなければできな  
い夢なんてない。中学受験を全滅して公立に進学した子が、そこで学年トップを取つて高校  
入試で中学受験の時に受けた学校を滑り止めにした子もたくさんいる。

親や先生は結果だけに目が行きがちになるけど、君だけは勉強した事をちゃんと財産として認めてあげて欲しい。勉強したことは絶対に君を裏切らない。合格してもしなくても君が勉強したことはちゃんと力になっている。だから進学したその先でさらにその勉強を深めていくんだ。合格はゴールじゃない。勉強する「場」が決まっただけだ。その場所だけにこだわらなくてもいい。君の最終目標は誰かに学んできた事で感謝される事、LOVE OTHERSなんだから。いつかLOVE OTHERSを実現するその日まで、大いに勉強していこう。

## 2. 高校受験の勉強法

次に高校受験について説明しよう。現在の日本では義務教育は小学校と中学校だけを卒業した君は高校へと「進学」するか、「就職」して働くかという選択を迫られる。

でも、実際はほとんどの中学生が高校へ進学する。文部科学省の資料によると平成21年度の中学卒業生はおよそ120万人。そのうちの97.9%が高校へ進学した。これはほとんど高校までが義務教育になっていると言ってもいい状況に見える。

でも、中学生にとつてみれば高校という進路はやはり義務教育ではないと僕は思う。なぜなら「入学試験」があるからだ。無試験で入学できた義務教育の小学校や中学校とは違い、高校は「自分の力で」受験に合格して進路を切り開かなければならない。学校の先生や親や塾の先生や家庭教師など色んな人が助けてくれたとしても、結局試験会場で自分の未来を切り開くのは自分自身だ。高校とはそういう意味で「義務」ではなく、自分が意思を持って試験を突破して入学する学校だ。それがどんなに行ける可能性の高い試験だとしても、15歳の少年少女が自らの意思で道を切り開く第一歩、それが高校受験なんだ。

高校には公立高校と私立高校、さらに国立高校や高等専門学校（高専）、通信制高校がある。その中でも大部分の生徒が公立高校か私立高校の選択を行っているのが現状だ。

僕が高校受験をした頃は公立は五教科（英数国理社）、私立は三教科（英数国）でそれぞれ一回の試験で合否を決めていた。私立は学校ごとに受験日が違うので複数校受けられたけど、公立は全ての学校が同じ日に受験を行うので一校しか受けられず、さらに公立高校に合格したら絶対に行かなければならない、という制約すらついていた。

僕の頃は子どもの数も多く、学校も生徒を振り分けるのに受験を利用していったから、受験

問題は難しく、チャンスも一度しか与えられなかった。でも今は違う。「少子化」という現象が入試制度を大きく変えていったからだ。

現在公立高校は各都道府県によって制度は異なるが大体2回受験のチャンスがある。(前期後期や自己推薦など名称は地域によって名称は異なる)私立も推薦入試などを行う事によって生徒数の確保に躍起になっている。数少ない子どもをめぐって各校が独自の教育方針を打ち出したり、より充実した設備を整えたりしているのはとてもいい傾向だ。だが、学校側が生徒を欲しがるようになって、高校入試の「自分の人生を切り開く」と言う性質は失われてきてしまったようにも思える。面接だけで合格する学校もあれば、形だけの試験で受かってしまう学校もある。それは自分の力で切り開くというよりも、合格する事が前提になっている義務教育と大して変わりはない。学校側は努力して生徒を迎えようとしているのに、生徒の側が「お客さん」状態になり、努力もしないでふんぞり返る状況が生まれてしまった。またそのような義務教育に近い高校入試が増える一方で、私立でも公立でもトップ校の受験は相変わらず厳しくなっている。誰でも高校に行けるようになってきている時代だからこそ、誰でも簡単には行けないような難関校を目指して入試は激化する。

そしてその傾向は大学入試にも現れている。高校と同じように、大学全入時代になり大学

までが義務教育であるかのように誰もが大卒の学歴を持つ時代が来ると言われている。そうなれば高校も大学も「行く」事が大事なのではなく、そこで「何を学んだか」が重要になってくるんだ。

義務教育のうち、小学校では人間として生活していくための基礎的な事を学ぶ。小学校に入る時はまだ読み書きもおぼつかない一年生だ。それが水や空気や火といった自然界に存在するものや、月や太陽やその他の惑星、自分の生まれた国の歴史や政治のシステムを学び、それらを日本語を通じて吸収していく。そして小学校を卒業する頃には、仕事こそできないものの、生活においては自分の事はある程度自分でできるようになっている。

次に中学校では社会の中で日常生活を送るのに十分な知識を、小学校で学んだものに追加していく。世の中の仕組みを知り、外国の言葉を知り、世界には多くの人が生活しているという事を知り、自らもそんな広大な世界で生きていくための知恵を身につけるんだ。中学校を卒業する頃には肉体的にも大人に近づき、それに伴って精神的にも成長していく事が期待される。時代が時代なら家を継ぎ、武将として何万人もの家臣の命を左右する事ができる年齢だ。しかし高校への進学が当然のようになくなってしまった今、中学生の自立の意思は低く、子ども達が社会の扉を開くのは次の高校のステージへと持ち越されてしまうのだ。

僕は中学生の生徒達にはより具体的な夢を尋ねる。

「お前は将来何をやりたい？」

小学生の頃と違って多少身の程を知った子どもたちは「プロ野球選手」とか「アイドル」とは言わない。もちろん本気で目指している子どもたちは迷う事無くそう答えてくれるが。

「僕は将来医者になって病気の人を助けたい」

「僕は将来パイロットになって、大勢の人を飛行機で運びたい」

「僕は将来中村先生みたいな先生になって多くの人に勉強を教えたい」（感動）

「私は将来作家になって、推理小説を書いて多くの人をあっと驚かせたい」

色んな夢を聞く。僕はそれを叶える道を真剣に探す。そして勉強する事がその最短ルートだと分かった場合、「しっかりと勉強しなさい」と言う。それは自分の将来のため、今抱いている夢を現実近づけようとする自立のための第一歩として、「勉強」という手段を使うんだ。いつか近い将来自分の「力」で生きていく日がやってくる。ずっと学生をしているわけには行かない。それを自覚し、目的意識を持って今の勉強に取り組む事が中学生という精神レベルにふさわしい在り方だと僕は思っている。

だから僕は彼らに高校受験の勉強方を教える。高校受験も試験、それなりにやり方とコツ

がある。それを説明しよう。

まず私立を希望する場合。私立高校は国語・数学・英語の3教科が受験科目になる。

国語は現代文（評論・物語・詩・短歌・俳句）と古文・漢文が出題される。評論や物語は中学入試の勉強法に書いたように「何についての文章で何が言いたいか」と「事件と、それによる登場人物の心情変化」を中心に自分の言葉で説明できるように読んでいけばいい。それ以外の分野では表現技法や文法など特殊な使い方をマスターすることが求められる。

詩の分野では表現技法を学んでおこう。何かを何かにたとえる比喻（直喩、隱喩、擬人法）や語順を逆にする倒置、同じ構造の文章を並立させる対句や名詞で文末を終える体言止めなどいくつかの表現技法がある。

短歌や俳句は、切れ字（区切れ）や季語など独特の用法を勉強しておこう。そのルールを勉強して自分で句を詠んでみるといい勉強になる。

古文や漢文も同じだ。高校受験の古典（古文・漢文）の扱いはそんなに大きくはない。基本的なルールを学んでおけば入試は突破できる。でも高校に入ったなら、「古文」や「漢文」という独立した授業が待っているから、入試の勉強からちよつとずつ文法を入れておく事をオ

ススメする。例えば「けり」は過去を表し「した」と訳すとか、「いと」は「とても」と訳すとか、よく出てくる言葉のルールを覚えておくようにするといひ。

次に数学。数学では中学校で習った基本的な事項を「使える」かどうかを問われる。方程式の問題ではマイナスの計算ができていますか（正負の数）、 $X$ と $Y$ の二つの文字があっても解けますか（連立方程式）、 $X$ が二乗になっても解けますか（二次方程式、二次関数）などが出題される。他にもルートを使った計算や確立の求め方など、「数」を中心とした分野では公式を覚えているかどうかではなく、それをちゃんと「使えているか」どうかを試す問題が多いのでそれを頭において勉強する必要があるんだ。

図形の分野では面積や体積の求め方はもちろん、角度の問題、円の問題が良く出題される。これも数と同様、色々な公式がある。直角三角形の辺の長さを求める三平方の定理や、円周角・中心角の問題、平行線に伴う同位角や錯角の問題など、項目だけ見ると「うわー、絶対無理ー（泣）」と言う悲鳴が聞こえてくるのもよくわかる（笑）でも、だからこそ、それを覚えるのではなく、「理解する」という本質の勉強を行うべきなんだ。

僕が見た生徒で中三の12月まで偏差値が40しかなかった生徒がいた。数学は特にひどくていつもテストの点数は一桁（泣）そんな状態で僕は彼女に出会った。「次の週にまた期末



テストがあるんです」と言う彼女はテスト範囲である2次方程式をほとんど理解していなかった。授業のノートはちゃんととつてあるものの、それがどういう意味で、式をどう活用すればいいのかはちんぷんかんぷんの状態。僕は2日に分けてその内容と意味を教え、教科書の問題を全て一緒に解いた。一緒に解きながら、答えを自分で出す喜びを知った彼女は数学を楽しむようになっていた。「これってこうしてみたらいいの？」理解した公式を自分で活用して問題を解いていく生徒、間違えた時はどこをどう間違えたのかを習って、軌道修正し正解への道を自分で切り開いていく。彼女は確実に出来る生徒になっていった。逆に言えば今までちゃんと数学を勉強していなかっただけだ。だからちゃんとやりさえすれば数学は決して難しい勉強ではない。それを彼女が証明してくれた。

たった2回の授業で彼女は92点を取った。クラスのみんなは驚いたそうだ。それもそのはず、今まで毎回テストで一桁の生徒がいきなり90点台になる。驚きどころか先生はカンニングを疑って職員室に彼女を呼んだそうだ(笑)でも、そんなことも僕らには想定済みだった。授業中彼女とこんな話をしていった。

「なあ、お前がコレだけ数学ができるようになったらみんな驚くぜ。どうする？先生なんかカンニングしたるって疑うかもしれないよ」

「えー、ヤダよ。じゃあわざと間違える？」

「あほ！そんなことしないでいいよ。もしそうだったら『じゃあ何でも聞いてください』って言いな。『この範囲ならどんな問題でもいいので出してください』って。」

「無理無理、そんなのきつとできないよ。」

「それが出来なかつたらテストも出来ないはずだ。大丈夫、お前はちゃんと教科書も問題集も「自分で」解き方を説明しながら解いてきたじゃん。テストの時も同じように頭の中で説明しながら問題を解けば、絶対にうまくいくから」

予想通り彼女は高得点をたたき出し、先生にカンニングを疑われ、職員室で先生の問題に答えた。その後彼女の家に先生から親に電話がかかってきたそうだ。「一体どうしたんですか？」って（笑）

別に特別な事をしたわけじゃない。ちゃんと問題を「理解する」事で彼女は点数を取った。点数だけ見れば異常なことかもしれないが、僕から見ればそれまでの勉強の仕方が異常だった。（笑）勉強をする時は「理解」を重点に置く。決して「点数」を重点に置いちゃいけないんだ。

そして英語。英語も数学と並んで苦手な人が多い科目だ。中学に入学して間もない頃は、

アルファベットを文字通り「A B C . . .」から勉強していたはずなのに、いつのまにか英文が何を言ってるのか分からない。まるで呪文のような長文を見ると眠たくなってくる。(僕は試験中に寝た事があるよ泣) そんな状況を解決するには、やっぱり正しいやり方があるんだ。それを説明していこう。

英語の勉強は単語と文法の大きな柱がある。中学校で習う文法を挙げていくと、Be動詞、一般動詞、進行形、過去形、命令文、不定詞、付加疑問文、感嘆文、比較、受動態、現在完了、関係代名詞、間接疑問文と主なものでこれだけある。既に授業で習った人はこれらの項目を聞いて「ああアレでしょ。」と説明が出来ればその勉強はOK。練習問題を解くといい。でも、「何かやった気はするなあ」位の理解であれば、もう一度その文法の意味を学びなおしたほうがいい。「英語が分からない」の大半は、曖昧な理解のままに進めなくなっているだけなんだ。つまり、英語の勉強も数学と同じように「理解」を中心に進めていく必要があるってことだね。

英語というのは何も受験のために開発された秘密の呪文集ではなく(笑)、アメリカやイギリスなど多くの国で実際に使われている「言葉」だ。僕らが日本語を使って自分の思いを

伝えたり、日本語から何かを学んだりするように、外国の人は英語を使って同じ事を行っている。朝僕らが「おはよう」と言うように、彼らは「グッドモーニング」と言い、「あなたが好きです！」と想いを伝えるように、「アイラブユー」と伝えている。英語を使う人達が伝えたい言葉は、きつと日本語にもある。逆に僕ら日本人が伝えたい言葉は英語にもあるはずだ。「こんな時英語だと何て言うのかな？」そんな純粋な姿勢を忘れちゃダメだぞ。

今説明したように英吾も日本語も実際人々に使われている「言葉」だ。言葉には法則がある。

「食べた ラーメン は 私と 一緒に お店で トムは。」

こんな日本語通じないだろ (笑) 単語をどれだけ覚えていても、その並べ方がメチャクチャでは意味が通じない。正しく、

「トムは私と一緒にお店でラーメンを食べた。」

と言って初めて日本語として意味が通じる。同じ事を英語で考えてみよう。

Tom ate noodle with me at the shop. J

(トムは) (食べた) (ラーメンを) (私と一緒に) (その店で)

こんな風に英語にも正しい並べ方がある。それが文法と言うものだ。

使える単語の数を増やし、その単語の正しい並べ方を学ぶ事、それが英語の勉強の本質だ。文法には正しい意味がある。例えば Be 動詞。Be 動詞って一体何だ？答えられるかな？それは「存在（くいる）」と「状態（くです）」を表す動詞だぞ。am や is、are という種類を覚えてただけじゃ全然理解してないんだぞ。

単語だって同じだ。単語にもちゃんと意味がある。例えば「spring」と言う単語は元々「急に動くもの、飛び跳ねるもの」を意味した。その語源から、地面から湧き出る「泉」、ぴよんぴよん飛び跳ねる「ばね」、草木がによきによき地面から飛び出す「春」の意味を持つようになったんだ。こんな風に各単語の語源まで理解すれば、無理矢理暗記しなくても頭に意味が入ってくるんだ。

やっぱり英語も意味を理解する「本質」の勉強が大事だという事が分かったかな。

公立高校の入試では私立の3教科に加え、理科・社会が必要になる。でも実は高校入試の理科・社会は、中学入試の範囲に少しだけ内容が加わった程度なんだ。社会で言えば世界地理、世界史の一部が加わるだけ、理科は力と圧力や天気、細胞などが新しく登場する他は小学校で習った事の応用になっている。だから基本的な勉強のやり方は中学入試の勉強法で説

明したものと同じだと考えていい。

どの科目も基本的には「本質の理解」、コレに尽きるって事が分かってきたかな。では次に大学受験の勉強法を見ていこう。

### 3. 大学受験の勉強法

大学入試ではそれまでの入試と違って、学部ごとに受ける科目も配点も異なる。大まかに法律や経済、政治や文学などの文系学部と、医学や理工学、生物学などの理系学部に分かれる。文系の科目は英語、国語（現代文・古文・漢文）、社会（日本史・世界史・地理・政治経済・倫理・現代社会）が中心となり、理系の科目は英語、数学、理科（生物・化学・物理・地学）が中心となる。

また受験する大学が国公立大学か私立大学かでも受験科目は異なる。私立大学は大学ごとに受験日も問題も異なる。受験科目は文系の英国社、理系の英数理が一般的だ。一方、国公立大学を受験する場合は1月に行われるセンター試験という試験で国公立大学受験者全員が一斉に同じ問題を受験する。その時の科目は、文系も理系も英数国理社の5教科全てだ。そ

## 日本の学校の数(2010年)

小学校	15399
中学校	7545
高等学校	5251
大学	791
短大	482
高専	60

単位:校

そんな大学入試の勉強はこれまで説明してきた中学入試や高校入試とは大きく異なる。大学入試には失敗した時の受け皿がないんだ。中学受験は失敗しても公立の中学校に行く事ができる。高校受験は地域にたくさん高校があるために、失敗する事がほとんどない(どこかしらの高校に入ることができる)。だから進学率もかなり高かった。でも、大学の場合にはそうはいかない。大学全入時代が来ているとはいえ、まだまだ大学に入れず「浪人」している人も多い。

してその後、希望する大学が独自に出題する2次試験の問題を経て合格者が決まる。この2次試験の科目は私立と同じ英国社(文系)か英数理(理系)の3教科だ。

また、大学入試では大学や学部によって差はあるが、大まかな傾向として英語に傾斜配点がかけられる事が多い。傾斜配点とは科目によって満点が違うと言う制度だ。例えば早稲田大学の法学部の場合、英語が60点、国語が50点、社会が40点となっている。英語は文系にも理系にも含まれる最重要科目で得点も高い。次に国語と数学が傾斜配点をかけられやすい。そして理科社会と続く。このような科目間の配点バランスの違いを意識しながら、度の科目にどれだけ時間をかけるかということも大学入試では重要になってくる。

文部科学省のデータによると平成22年度の大学の入学定員が約55万人なのに対し、志願者は約73万人もいる。単純に計算できるものではないが20万人近くの人が大学に入れず、もう一年勉強を重ねて入試に再チャレンジしている状況だ。

（実際のところは簡単に入れる大学が増え、より高度な勉強をしようと難関大学を目指す人達の入試が激化している。前にも説明したけど、誰でも入れるなら「どこ」に行ったかで差別化を図ろうとしているんだね）

高校入試までは何とか丸暗記や一夜漬けで突破してきた生徒も、大学入試ばかりはどうにもならない（笑）なぜならそこにはちゃんと「競争」があるから。大学受験は入りたい人数よりも入れる学校の数が少ない世界。その世界で合格を手にするのは、運がいい人でも、勘が冴えてる人でもない。ちゃんと本当の勉強をしてきた人だ。

逆に言えば、今まで何とかごまかしてきた小学校、中学校、高校までの勉強のツケが一気に噴き出すのがこの大学入試だとも言える。みんなが大学に行ける時代が来てるからきつと入試は簡単だろう、そんな高をくくっていた人が一気にガツンとやられる。大学入試は範囲の決まっている定期テストとは違って、広大な範囲から重箱の隅をついたような問題が出される。なぜか？答えは簡単だ。そうしないとみんな合格しちゃって大学に生徒が入りきれ



なくなってしまうから。だから人気のある大学ほど問題を難しくして生徒をふるいにかけるんだ。そんな難しい問題には、昨日今日仕込んだ知識では到底かなわない。まずはそれを覚悟しよう。

僕は家庭教師で浪人生を受け持っている。一浪の子もいれば二浪の子も珍しくない。過去には三浪の子もいた。何年も受験勉強を続けている彼らに出会って、僕が最初に行く勉強は何か？それは「中学校の復習」からだ。

B e 動詞の意味は知っているか？この数式の意味は説明できるか？この用語の意味は？この時代の流れを説明できるか？これは何を調べる実験か？基本的な事、誰でも知っているような事を根本から問いただす。数学は正負の数から、英語はアルファベットから、国語は高校入試の文章読解から。基礎からやり直す事で「解っているところ」と「解らないところ」がはつきりする。僕はその「解らないところ」を見つけてあげて、そこから教えてあげればいいだけなんだ。

僕は生徒が「わかりません」と答えても絶対に怒らない。その代わり、解るまでとことん教える。何回も何回も色々な角度から説明したり、身近にある様々な例を出したり、僕は理解させる事に手を抜かない。それは勉強がわからないのは半分は生徒のせい、そしてもう半

分は先生のせいだと思ってるからだ。だから僕の責任である半分までは全力を尽くそうと思う。だから生徒が解ろうとする事に手を抜かない限り（適当に授業を受けない限り）、僕は絶対に怒らない。

たまに「どこがわからない？」と聞くと、よく考えもせずに「全部わからない」と簡単に言う生徒がいる（泣）そんな場合にはもう一度、中1からやり直してやるんだ（笑）そうすると生徒は「それはわかってるよ」と焦る。「だったらちゃんと自分の解らない所を見つけようとしろ！」そうやって怒られた生徒が何人もいる。

僕が理解させる事に全力を尽くせば、あとは生徒がもう半分を頑張るだけ。生徒が「わかった！」と言えば、僕は生徒を信じて待つだけだ。しっかり復習して、テスト本番で理解度をアピールしてこい！いつかその学んだ事を使ってLOVE OTHERSを実現してこい！そうやって生徒を送り出すのが先生の仕事だ。そうやって僕は一年間で浪人生の偏差値を10も20も上げて、志望大学の合格と一緒に喜んできた。

君が大学入試を目指すなら、中学校から積み重ねてきた勉強をもう一度おさらいしながら、どこまでが解っていて、どこからが解らないかを見つけよう。ポイントは「自分の言葉で説明できるかどうか」だ。昔の教科書を開いて、自分で説明できなければそこから君の勉強

すべき所、君の大学入試の勉強のスタートラインだ。

そして高校までの範囲を終えたら、志望する大学の過去問を難易度の低い所から順番に解き始めよう。問題を解いて間違えた所、意味が解らない所を徹底的に潰し、一つずつ大学のランクを上げていく。そして受験生として年を越えた1月に受験本番を迎える。こんな流れだ。

過去問は実際にその大学で出題された問題だから、2度と出ないと言えばその通りだが、大学の問題はよほどの事がない限り同じ位の難易度、同じような問題が出る。(これを出題傾向という) だから受験開始までにやり終えた過去問が君の合格率を示すバロメーターになるんだ。過去問をじっくり解いてきた人は自信をもって受験に臨む事ができるし、過去問を解いて不安があった人は本番でも不安を抱く可能性が高いということだ。出来るだけ早いうちから過去問を解き始めよう。

大学入試は時間の量だけ見れば浪人生が有利に決まっている。受験勉強だけに一年間多く積み重ねてきた人にはどうやっても勝てるわけではないと思うだろうか？でも、僕が見る限りそんなことはない。浪人生のうち、本当に正しい勉強法でバリバリやってきた人に勝つのは難しいが、勉強法が分からず一年間多く時間を費やしてもそれが徹底していない人もかなり多

くいるため、現役生にだって十分にチャンスはある。苦手や解らない所を後回しにする勉強法では、いくら時間をかけても学習効果は大きくはならない。嫌々やってる勉強では一年二年かけたって本気でやった一年間に敵うわけもないのだ。

逆に現役生は学校に通っているメリット（利点）を最大限に生かそう。分からない事があれば職員室に通いまくれ！快適な勉強環境である図書室をフル活用しろ！毎日受けられる日々の授業を大事にしろ！そういつた現役生の環境をうまく使う事で短時間のうちに大きな成長を遂げることが可能になる。（逆に浪人生がそのメリットを最大限に生かす方法もあるんだけど、それはまた次の話にしよう）

こうして大学受験に合格した君は晴れて大学生となる。そして大学の次はいよいよ社会に出るんだ。次は「就職」について話をしよう。

#### 4. 就職試験の勉強法

学生としての勉強を終えると、いよいよ人生の本番、社会に出る時が訪れる。

社会人になるために多くの人は会社に入社する。（芸術家になったり独立開業したりする人

ももちろんいるけど、数は多くないだろう)しかし、会社という組織に入るためにもやはり入社試験という試験をパスしなければならぬ。

「えー!また受験があるの(泣)」

と思うかも知れない。でも多くの人がその会社を志望しているなら、試験によって合格者を選抜しなければならぬのも現実だ。また会社側にも言い分がある。

学校と違って会社と言うのは利益を上げて、社員にお給料を払っていかなくてはならない。会社の売上げが上がれば社員達の給料も増えるし、下がればお給料は減っていく。(団体戦みたいだね)だから会社は常に利益を生み出し、大きく成長していかなくてはならない。会社とはそういう団体だ。もしも利益が上がらなければ会社は潰れてしまう。そうなれば社員も働く場所を失って路頭に迷ってしまう。学校と違って勉強を教えて卒業させればいいという訳にはいかないんだ。だから一緒に働くメンバーを選ぶのにも当然慎重になる。試験を行って、同じ会社と一緒に人生を歩める人材を選び出すようとしているんだ。わかったかな?みんな生活や夢がかかっているから真剣なんだ。その会社を志望する学生が中途半端な気持ちだとしたら、すぐにガツンとやられてしまうぞ。

そんな入社試験は今までの試験とは比べ物にならないほど難しい。でも今までと比べ物に

ならないくらい簡単だ。ん？どういうことか分からない？（笑）じゃあその特徴を一言で教えよう。

### 入社試験には答えがない。

今まで君が経験してきたどんな入試も問題と解答があった。君はその用意された解答を出す事で得点を重ね、合格を手にしてきた。でも、入社試験には用意された解答がない。じゃあどうしたらいいの？運？それも違う。

人生を生きていく中で「答え」があるものというのは実は少ない。どうやったら確実に商品が売れるか？どうやったら好きなあの子と両想いになれるか？どうやったら幸せになれるのか？そこには答えなんてない。

もっと広い世界を考えてみる。どうやったら戦争がなくなるか？どうやったら貧困がなくなるか？どうやったら難病がなくなるか？そんな問題に必死で取り組んでいる人達がいる。でもそこには用意された答えなんて一つもない。

じゃあどうするのか？

無い答えは、探すしかない。

これが今までの試験とは違う、一番ムズカシイ特徴だ。答えが無いならどうやって答えればいいんだ？受験勉強に慣れてきた人はそう思うだろう。でも僕がずっと説明してきたように、勉強とは用意された答えを暗記して答えるものではなく、広い世の中を知り、自分が何をすれば人の役に立つかを見出すものだ。「どうすればいいだろう？」と考えることこそ本当の勉強であり、それを使って初めて勉強の意味、LOVE OTHERSが実現できるんだ。だからそういう意味ではこの就職試験を始め、社会に出るからの日々は勉強好きな人にとっで見ればメチャクチャ面白い。また、自分ではそう思っていないくても用意された答えに合わせなければいけなかった受験勉強と比べれば、自分の考えを実行し、失敗から学び、自分で答えを作れる方がどんなに簡単だと思えるだろう。

これが社会に出る、生きるという事だ。つまり社会に出るためには、一度勉強を卒業しなければならぬんだ。学校を経て自分の生きる道を見定め、働くことが決まったら、そこからはもう勉強じゃない。答えの無い世界で、自分の信じる答えを探していく。それを僕は「学び」と呼ぶ。学びの世界では誰も答えを教えてくれない。自分で研究し、自分の答えを出し

ていくんだ。

世の中には問題がたくさんある。一つ一つの対処法なんてどこにも書いていない。だからその答えを自分で出していく事によって、人は人生を生きていく。逆に君が出した答えを、後の世の人達は「勉強」していく。君が昔の人が出した答えを勉強したようにね。みんなそうやって来た。そうして人類の命はつむがれてきた。だから君もいつか勉強を卒業し、学びを始めなければならないんだ。

でも最近のマニュアル本やハウツー本など、安易な「答え」を出している本が世に溢れている。受験で「答え」に慣れてしまった子ども達は、自分で考えることを放棄し、すぐに答えをねだる。そしてもし答えが出なかったり、ないことが分かるとどうするか？

諦めてしまう(泣)

最近の子が我慢ができない、すぐにキレると言われるのは、実は自分で答えを出す練習をしていないからだと思ふ。答えを自分で探す訓練をしていない子ども達は、壁にぶつかると、まずは誰かの答えを探す。「絶対に答えはある」「誰かが教えてくれる」と信じているから。でも答えは無い。するとその子は人にやってもらおうとする。

「お金払えばやってくれるでしょ」と他人任せにする。



「親なんだからやってよ」と自分の事は棚に上げた責任論を押し付ける。

結局自分で壁を乗り越えずに、親がお金を出すか、代わりにやってあげるかして乗り越えてしまうと、自分の足で生きていく力は失われてしまう。親がフォローできるうちはまだいい。社会に出ると親の力じゃどうにもならない事が次々に起こる。そうなった時、その子はどうするのか？諦めて家に引きこもるんだ。自分のわがままを聞いてくれる親と自分だけの世界で安心して過ごす道を選んでしまうとと言う事だ。

だからまずはちゃんと「自分で」勉強しなければいけないと僕は言うんだ。学校でも塾に行っても家庭教師とやっても本を読んでもいい。どんな環境で勉強するにしても「自分が」勉強していることを忘れちゃいけないんだ。そしていつか「自分の」答えを出すつもりで勉強していかないと、いつまで経っても子どもそのままになってしまうんだ。君も気をつけてね。

話を就職試験に戻そう。そんな社会への門、就職試験は学校の受験気分で受ける人達を容赦なく「不採用」にする。50社も60社も受けて、一つも内定（合格のこと）をもらえない人もたくさんいる。

僕は君に、志望する会社に入るための一番いい方法を教えよう。

それは「その会社を誰よりも『好き』であること」。それだけだ。

世の中では適正と呼ばれる「向いているか」とか、「資格」と呼ばれる人間の品質証明書が必要だと声高に叫ばれている。だから目的も夢もなく適性検査の特訓をしたり、資格を取りまくったりしている人も多い。でも、何度も言うがそれは「答え」じゃない。

君が会社に入って働くのは、その会社の行う仕事によって、誰かを喜ばせたいからだ。その趣旨や活動に共感したから君はその会社の門を叩いた。だったらどれくらいその夢が大事か、どれくらい本気でかなえたいか伝えればいい。もちろん、ただ「好きです」と言うだけなら誰でもできる。

例えば世界中の難民（戦争などで国を追われて避難している人）を救いたいと思ったら、難民の救済活動をしている国連の門を叩くのが一番の近道だ。国際連合には国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）と言う組織がある。そこの職員募集告知を見た君は早速応募する。そして面接の日が決まり、君は指定された会場へ行くんだ。

その面接の場で君は面接官に何を伝えるだろうか？ただ「人の役に立ちたい」というだけなら小学生でも言える。大人になって社会に出た君は、どうやってその活動に取り組むのか、

君のどういう長所を活かせばもつと活動が広がるか？そんなことを説明しなければならない。そこにはもちろん熱い想いが必要だ。「同じ時代を生きる、同じ人間なのに、これほどまでに差がある現状を見過ごせない。」「彼らにも夢を与えたい、生きる希望を与えたい」「そんな想いが無ければ、厳しい状況になればすぐに逃げ出してしまつたろう。どんな状況でも歯を食いしばつてやつていけるのは、そんな熱い想いが心にある人間だろう。そういう意味で君は「好き」を伝える必要がある。

もうひとつ、その夢のために今まで君はどんな生き方をしてきたかを伝える必要がある。君が難民を救いたいと思つたのは昨日今日のことなのか？そうじゃないなら、いつ、どんなきっかけがあつたのか？そしてそれを夢と定めた日から今日まで、君はどんな活動をしてきたのか？それがもう一つの「好き」の部分になる。思つてはいたけど何もしませんでした、は思つていないのと同じ。次々と生まれる難民を見て見ぬフリをしてきた人間には、ある日突然難民救済の仕事を任されてもきつと勤まらないだろう。何らかの形で興味を持った事に取り組み、活動してきた人がその規模を広げたくて門を叩くのが組織に入るといふことだからだ。

会社に入らなければ出来ないから、組織に入らなければ出来ないから、と出来ない理由を

最初に見つけてしまう人は、自分で答えを見つけ出していく「社会」の中では能力が低いと見られてしまう。たとえどんなに偏差値が高かったとしても、たとえどんなに成績が良かったとしてもだ。だってそれだけじゃあ誰も救われないし、それだけで生きていく事なんてできっこないから。生きるためには、働くためには、学んできた事を実行し、誰かの役に立てていく事が絶対に必要だ。だからそのための面接や試験では、君がどれだけその道に惚れ込み、どれだけその道に向かって突っ走ってきたかを伝えればいいんだ。

こうして学生時代から難民問題に関心を持ち、独自に活動を行ってきた君は、面接でその想いを伝え、めでたく職員に採用された。晴れて職員となった君は世界を舞台に思う存分夢を実現させていくだろう。こうやって人は社会に出て行くんだ。

僕は先生になって14年になる。今まで通信制高校の先生、予備校の先生、家庭教師の先生、地域ボランティアの先生、在日外国人のための先生、と色々な所で先生をやってきた。そんな僕はどこで授業をやるにしても、決まった仕事をやる事なんて一度も無かった。

高校教師のときは不登校や少年犯罪という問題を抱える生徒達に「自分には何ができるのか」をひたすら考えて、できる事を片っ端から行動していたし、予備校で授業をする時も「ど

うやったら勉強を面白く、わかりやすく教えられるか」を常に考え授業に改良を加えていった。家庭教師をやっている時は、入試に合格したい、学校に行けないので自宅で勉強をしたい、ずっと学校の勉強をサボっていたので最初から教えて欲しい、など生徒一人一人の要望が全く違う状況の中で、自分と言う存在が何をしたら、どう教えたら生徒を喜ばすことができるか、それだけを必死で考えていた。もしかしたら教科書をなぞって、「ここが大事だから覚えるといいよ」と言う授業も出来たかもしれない。でも僕はそれをしなかった。その教科書に書いてあることの「意味」を一つ一つひたすら調べて教えた。なぜか？その方が勉強の本質が分かって面白いから。最初はただそれだけだった。

僕の事を「先生」と呼び、信頼を寄せる目の前の生徒に、僕は何をしてあげられるだろう？僕に出来ることはせいぜい今まで学んできた事を伝えることぐらいだ。でも、それがその子にとつて意味を持つなら、もつともつと分かりやすく、もつともつと色んな事を教えよう、そう思って僕は先生の道を歩み始めた。そして多くの生徒と出会い、共に勉強していくうちに、僕が勉強を教えることでその子達の夢が実現に少しでも近づくという事に気づいた。僕が生徒と勉強を楽しむ事で生徒の世界が広がり、誰かの力になりたいと言う夢が生まれる。そしてその夢の実現のための試験や、技術の習得のために必要な勉強を僕は生徒と一緒にす

ることが出来る。だったら僕は生徒が夢をかなえる手助けをしたい。それが僕が先生としてやりたい事、やるべき事になった。

「どうすれば夢はかなうか？」

僕はずっとそのテーマを考え続けてきた。それはまるで答えのないトンネルのようだった。トンネルの中で、出口にある光を見続けながら僕はがむしゃらに突っ走ってきた。一人一人状況が違う生徒に「これをやったらいい」なんて答えはない。だから僕は生徒とたくさん話をした。世の中のこと、夢のこと、恋のこと、色んな事を一緒に考えて、悩んで、勉強してきた。

僕はまだ今でもトンネルの中を走っているのかも知れない。出口に着くのはいつの日か見当もつかない（笑）でも、今まで走ってきた道の中で、僕は確かに光を見た。やってきた事が無駄ではないと信じられる光を。それは何か？それは僕と関わった生徒、親、一緒に仕事をした人達からの感謝の言葉だったんだ。

「先生と出会えてよかった」

「中村先生みたいな先生にボクもなる」

「先生がいなければ今頃どうなっていたかわからないよ」

「私も昔、中村先生みたいな先生に教えてもらいたかったなあ」

「先生、ありがとう」

そんな言葉を色んな人から頂いた。そんな時はいつも思うんだ。僕は生まれてきて良かった、生きてきてよかった、と。僕自身はちっぽけな存在だけど、僕が生きている事で一人でも救われる人がいるなら、これからも頑張っていこう。そう思う。誰かの僕に対する感謝が、僕が頑張る原動力になっているんだ。だからむしろ感謝しているのは僕の方だ。

「僕に愛情というパワーをくれてありがとう」

LOVE OTHERS。それが僕のトンネルの出口に見える一筋の光だ。僕は別に「先生」と言う仕事にこだわっているわけではない。先生として生徒を愛しているのと同じように、親として子ども達を愛しているし、夫として妻を愛している。さらにこの時代に生きる日本人として、国内の心無いニュースに胸を痛めるし、地球と言う一つの星の住人として環境問題や戦争に胸を痛め、自分にも何か出来ないかと日々答えを探し続けている。

誰かのために何か出来ないか？

そんな「誰かを愛するパワー」が僕を生かしている。きっとみんな同じように愛する誰かのために働いているし、愛する誰かのために命がけで戦っている。もしこの時代に愛する人、守るべきもの、救うべき人がいなかったら、みんな生きる目的を無くしてしまうのかもしれない。

僕は自分の命が尽きるまで、きつと誰かの助けを借りて生きていくだろう。僕は一人じゃ何も出来ない。僕はきつと誰かにご飯を作ってもらおうだろう、誰かに服を作ってもらおうだろう、（もしかしたらそれは君かもしれない）僕はその人達に心から感謝し、その人達が未永く元気で生きていてくれる事を願うだろう。

でもその代わりに僕だつて最期の瞬間まで誰かが「あなたに生きていてもらいたい」と思われるように生きていくつもりだ。ご飯を作ってもらったり、服を作ってもらったりしたお返しを、僕は僕の仕事で返しながら、僕もまた人に感謝されて生きていきたい。

それが僕の考える「生きる」と言う事、LOVE OTHERS for myself（自分のために誰かを愛す）ということだ。ぜひ君も自分の生き方を探し出してくれ。そして悔いの無い人生を送ってくれ。それが先生として僕が君に伝える最後の教えだ。